健やかな成長を支えて30年
内子児童館記念祭を開催

内子児童館（大野喜代香館長）は11月17日、内子東自治センターで「内子児童館30周年記念祭・じどうかんまつり」を開きました。

同館は、昭和58年に開設。児童の居場所づくりと、遊びを通して健康を増進し、豊かな心を育むことを目的に、さまざまな活動を行っています。

まつりは、児童クラブのメンバーなどによる元気いっぱいのダンスで開幕。会場にはさまざまな遊びのコーナーが設けられ、普段から児童館で交流活動を行っている高齢者グループや、えひめ子どもの城なども参加。子どもたちはたくさんの人と触れ合いながら、いろいろな遊びに積極的に挑戦していました。

㊧オープニングを飾った児童クラブの子どもたちによるダンス　㊨ドミノ倒しにも挑戦

小田深山の観光の可能性を探る
せんの森プロジェクト講演会

せんの森プロジェクト運営委員会（委員長：松井宏光松山東雲短期大学教授）は11月29日、内子町林業センターで講演会を開きました。

小田深山の観光の可能性を探ることがねらい。長野県軽井沢町でエコツーリズムなどを展開する㈱ピッキオ取締役・楠部真也（まさや）さんを招き、体験プログラムや運営システムの工夫などを学びました。楠部さんは、「紅葉や渓谷が美しい場所は近隣にもある。その中で、どこにターゲットを絞って、どうアピールしていくかが大切」と助言しました。

実情を分析し、自分たちのターゲットを探すことが重要とアドバイス

住民の暮らしを守るために
内子町原子力防災講習会

現状を訴える菅野村長。来場者からは3万円余りの義援金も寄せられた

町は11月19日、福島県飯舘村の菅野典雄（のりお）村長を講師に迎え、内子町共生館で原子力防災講習会を開きました。

同村は福島第一原発事故によって全村避難を強いられました。菅野村長は、村から1時間以内に村民の約9割が避難することで、村の機能を維持していること、保安と雇用確保を目的に「全村見守り隊」を結成し400人の臨時雇用につなげたことなど、村の暮らしを守るための取り組みを紹介。さらに「住民全体で原子力について学ぶことが大切」と訴えました。

愛媛県から日本を元気に
町内でシンポジウム開催

「第4回えひめまちづくりシンポジウム」（えひめ協同・まちづくりネットワーク主催、実行委員長・村田武愛媛大学教授）が12月1日、長田自治会館で開かれました。

県内を中心に活動する地域づくりの実践者が集まり、情報交換や交流を図ることが目的。高知県檮原（ゆすはら）町の自然エネルギーを生かしたまちづくりや、都市からの移住者の活動などが紹介されました。

町内からは中谷信弘（のぶひろ）さん（長田）と上田輝國（てるくに）さん（石畳7）が登壇し、それぞれの活動を発表しました。

自然との共生や、地域の過疎化対策などをテーマに意見を交換

手塩にかけて育てました
24年産内子夢ワイン発表会

ワイン娘から新作赤ワインのグラスを受け取ってにっこり

内子産ブドウを100％（パー）原料とし、県内で唯一ワイン醸造に取り組む企業組合「内子ワイナリー」は12月1、2の両日、24年産ワインの発表会を開きました。

会場には赤・白・ロゼの3種類の試飲を準備。熱心なワイン愛好家は、一つ一つ手にとって香りを確かめ、じっくりと味わっていました。

藤渕利通（としみち）代表理事は、「3年目を迎え、これまでで最高の仕上がりになった。特に白ワインが好評を得ている。多くの人に味わってほしい」と話していました。

買い物や触れ合いを楽しんで
小田中央商店街買い物バス運行

内子町、小田中央商店街、小田まちづくり㈱、内子町商工会で組織する買い物弱者支援事業実行委員会（小田護（まもろ）実行委員長）は、小田地区内の買い物弱者対策として「無料お買い物バス」の試験運行を開始しました。

23年度に町商工会が実施した「買い物弱者支援モデル構築事業」を受け、「自分で見て選んで買う楽しみや、商店主などとの交流」を重視し、移動手段の提供という形での支援対策を企画。3月末までの期間限定で試験運行を行うこととしました。運行管理は小田中央商店街が主体となり、商店主が交替でバスを運転。毎週金曜日に「上川・中川・参川」「大平」、土曜日に「臼杵・吉野川」コースを運行します。

出発式は12月1日、小田支所前で行われ、関係者が出席。この日は3人が利用し、「助かります。これからも利用したい」と喜んでいました。

関係者の拍手に送られて出発する「無料お買い物バス」